

1. 新病院の整備に向けた基本的な考え方・目指す姿

県民の命と健康を守る砦として、
本県医療の中核的役割を担います



- ・高度急性期医療の強化
- ・最先端医療への取組
- ・政策的医療への対応
- ・地域医療への貢献
- ・経営健全化の推進
- ・機能分化と連携による地域完結型医療の実現

やさしく親切で信頼されるサービス
を提供します



- ・患者を待たせない運用
- ・わかりやすい案内の実施
- ・効率的な動線の実現
- ・プライバシーに配慮した環境の整備
- ・多様性や利便性に配慮した施設の整備

県民の暮らしを守り、親しまれ、
地域に開かれた拠点施設とします



- ・災害時等に県民を守る拠点
- ・医療や健康の相談しやすい環境の整備
- ・健康増進のための施設の整備
- ・地域のコミュニティの活性化やにぎわいの創出
- ・周辺施設との連携や、地域の自然や歴史、文化、景観への配慮

全職員が誇りを持てる、
笑顔にあふれた職場環境とします



- ・ワーク・ライフ・バランスの実現
- ・D X推進による業務効率の向上や職員の負担軽減
- ・教育・研修環境の充実
- ・職員同士のコミュニケーションの活性化
- ・セキュリティ対策の強化やプライバシー確保

2. 診療科

37科

〔現状を基本に機能強化の
実現に応じて適宜設置〕

3. 病床数

512床

〔一般病床490床、感染症病床14床、
精神病床8床〕

4. 建設予定地

● 位置

山口県防府市大崎～佐野
（広域防災広場の西側隣接地）

● 敷地面積

約11.5ha

（医療施設用地 約7ha / 関連施設用地 約4.5ha）

県立総合医療センターの機能強化

高度急性期医療の強化

最先端医療への取組

- ・救急病棟の新設（救急医療体制の充実）
- ・重症系病床（ICU・HCU）の拡充（重篤患者等への診療体制強化）
- ・汎用性の高い手術室の増設（先進的な医療技術の導入や多様な手術への迅速な対応）

政策的医療への対応

- ・感染症対応に即時移行可能な一般病棟の新設
- ・環境保健センターの併設（新興感染症等の対応力強化）
- ・防府市広域防災広場との連携（大規模災害時の対応力強化）
- ・精神病棟の新設（身体・精神治療の一体的対応）

地域医療への貢献

- ・山口県看護協会の併設
- ・教育・研修棟の新設（医療人材の育成・確保）
- ・オンライン診療室の新設（5 G等のデジタル技術の活用）

療養環境の向上

- ・一般病棟の全室個室化（プライバシーの確保や感染症対策）
- ・緩和ケア病棟の新設
- ・小児科病室の家族介添スペース等の整備（患者・家族等のQ O L向上）

5. 施設整備方針

1. 高度急性期医療や政策的医療の機能強化を実現する施設
高度専門医療、三次救急の施設整備、精神病床の新設等
2. 患者や家族にとって快適でやさしさにあふれる施設
全室個室化による療養環境向上、効率的な動線の整備等
3. 災害に強い安心・安全な施設
広域防災広場との連携、免震構造、浸水対策等
4. 感染症パンデミック時も県民を守る施設
新興感染症に備える病床確保、陰圧対応、発熱外来設置等
5. 職員が働きやすく成長できる施設
医療DXの推進、教育・研修環境の整備、院内保育園等
6. 人が集まり、地域のにぎわいを創る施設
まちづくりと周辺地域の活性化、子育て支援・交流の場づくり等
7. 経済性と環境に配慮した施設
自然・街並み・歴史・文化との調和、ライフサイクルコストの縮減
8. 成長と変化に対応する施設
将来の可変性に対応したシンプルな施設整備等

6. 主な部門別計画

1. 外来部門

- ・患者の利便性の向上を図る呼び出しシステムや充実したアメニティの導入
- ・診療科の配置や他部門との連携、職員の動線に十分配慮した働きやすい環境
- ・より効率的な業務運営のためのDXを推進
- ・汎用性の高い診察室の整備
- ・感染症への対応を想定した動線、諸室の整備

2. 病棟部門

- ・感染症対策、療養環境の向上、効率的な病床管理等の観点から、病室は原則全室個室化
- ・職員同士の連携・交流を促進する働きやすい環境整備
- ・患者・面会者と職員の動線の分離

3. 救急部門

- ・24時間体制の高度な救急医療を提供
- ・災害発生時の重篤患者や配慮を要する患者の受入
- ・将来の医療需要の変化等に対応するため、救急病棟を増床できるよう整備
- ・患者を安全かつ迅速に搬送できる位置にヘリポートを整備

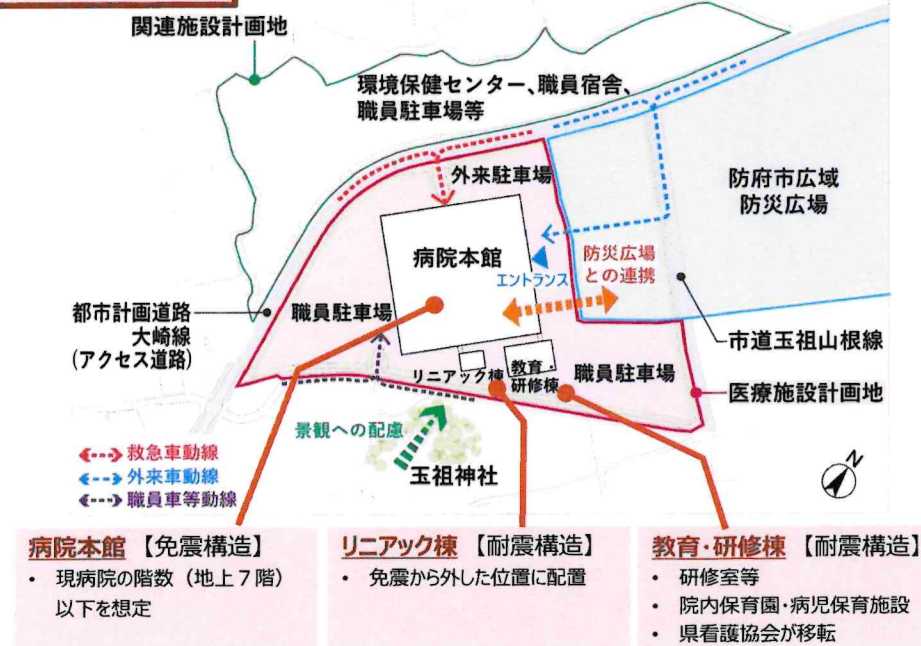
4. 集中治療部門

- ・集中治療の機能を集約、救急医療との連携強化
- ・将来の医療需要の変化等に対応するため、ICU・HCUを増床できるよう整備
- ・ICUとHCUの病床数の変更を柔軟に行える配置
- ・プライバシー確保やせん妄予防への配慮として、オープンと半個室双方への変更が可能な病室整備



7. 土地利用計画

土地利用ゾーニング (イメージ)



- **延べ面積** 約67,000㎡（病院本体建物、リニアク棟、教育・研修棟）
- **土地利用計画の基本方針**

1. 安全性

1. 安全性

人と車両の動線を分離、災害対応力の強化に資する計画、バリアフリーに配慮した計画等

2. 機能性・効率性

増築スペース確保、ヘリポートからの専用動線確保、関連施設用地の諸施設との連携等

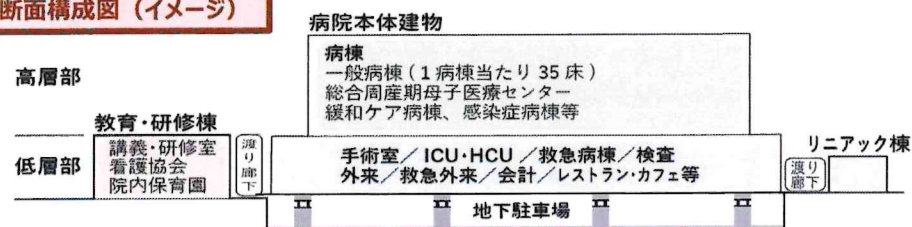
3. 近隣対策・周辺環境との調和

騒音や臭気などの影響軽減、周辺からの眺望配慮、広域防災広場と平時の相互利用等

4. 駐車場計画

患者用：約700台、職員用：約1,000台、免震層を有効利用した駐車場整備等

断面構成図（イメージ）



8. 整備・運営計画

●医療機器・什器備品整備計画

- ・新病院において継続して使用が可能な機器は基本的に移設
- ・医療機器の数・種類は、採算性や医療技術の動向、医療従事者の確保の状況等を考慮
- ・投資の平準化を図るため、開院前後の年次整備計画を策定
- ・ライフサイクルコストの縮減のため、機器整備時に保守も含めた入札等を検討

●情報システム整備計画

- ・ 患者や利用者の利便性の向上／効率的な業務運営／経営の健全化／緊急時の対応／セキュリティ対策の強化の5つの視点を基本として、適切なシステム整備を推進
- ・ 働き方改革への対応や新病院の持続的な運営を目指したDX整備を、医療の質の向上／患者の利便性の向上／職員の業務の効率化／経営基盤の強化の4つの柱を軸に検討

● 物流管理計画

- ・ 適正な物品管理システム整備、効率的な物品搬送システム整備、災害用保管スペース整備

●業務委託計画

- ・ 効率的な業務運営や患者サービス向上を目指した委託範囲の適正化

9. 整備手法

設計・施工分離発注方式（従来方式）

10. 整備目標スケジュール

年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
建物	基本設計・実施設計			建設工事		
				インフラ・外構工事		
造成	造成設計		造成工事			

11. 概算事業費および事業収支計画

●概算事業費

- ・ 約750億円を見込む
- ・ 昨今の建築資材や人件費の上昇等により、事業費の変動が想定されることから、適宜、事業費を精査
- ・ 建設後の安定的な病院経営のため、設計・施工に当たっては可能な限り事業費の縮減を継続的に検討

【事業費の内訳】

項目	概算金額	項目	概算金額
設計・監理	約14億円	開動幅工事	約25億円
本体工事	約526億円	移転等	約3億円
地盤改良等	約49億円	用地取得・造成	約67億円
医療機器等	約67億円	合計	約750億円

●事業収支計画

- ・開院5年目までは損益は赤字、開院6年目以降は黒字化の見込み
- ・事業費の適正化や経営改善の取組の強化、医療需要の変化に対応

※現時点における事業費の試算。各項目における事業費は四捨五入しており、合計と一致しない